

長野日報 2月3日 掲載



展示で研究成果について説明する生徒ら

駒工生が成果発表

駒ヶ根 高大連携ものづくりフォーラム

工業系高校と大学の連携推進を目指す駒ヶ根市の第5回「全国ものづくり高大連携発表会&マッチングフォーラム in 駒ヶ根（長野日報社など後援）」は2日、同市東町のアイバルで開いた。地元の駒ヶ根工業高校など高校生による研究成果の発表や展示などを行い、ものづくりや探究する魅力を発信した。

全国各地の高大連携の事例を学び合う機会を設けること

工業系高校と大学の連携推進を目指す駒ヶ根市の第5回「全国ものづくり高大連携発表会&マッチングフォーラム in 駒ヶ根（長野日報社など後援）」は2日、同市東町のアイバルで開いた。地元の駒ヶ根工業高校など高校生による研究成果の発表や展示などを行い、ものづくりや探究する魅力を発信した。

全国各地の高大連携の事例を学び合う機会を設けること

た。

研究成果の発表では、県内外の4校が取り組み内容などを紹介した。駒ヶ根工業高校は全国工業高等学校長協会や東京理科大学と進めている人工衛星プロジェクトについて発表。機器を納めるきょう体の製作や送信機のシステム製作などについて説明した。

展示では7校が、あらゆるモノがインターネットにつながる

がる「IoT」技術を使った農業用システムやリニアモーターカー、太陽光発電などの研究成果について説明し、参加者の関心を集めていた。

基調講演は、富士通の中山

五輪男常務理事「伊那市長谷出身」が「人工知能（AI）がもたらす未来の姿」と題し、AIによる新技術や想像される未来社会の姿などについて伝えた。（高島剛志）